



特別史跡平城宮跡のかたわらに所在する奈良文化財研究所(通称:奈文研)は、国立博物館、東京文化財研究所とともに独立行政法人国立文化財機構を構成する、日本を代表する文化財関連の調査研究機関です。

昭和27年に設立された奈良国立文化財研究所を前身とし、「文化財行政に資する研究をおこなう」をモットーに、奈良県下の恵まれた歴史的環境に包まれながら、考古学、保存科学や年輪年代学などの考古科学、建造物、文化的景観、計測修景など、不動産文化財を中心とする文化財を対象とした最先端の調査と研究をおこなっています。

文化財担当者研修



昭和41年から文化財保護委員会(現・文化庁)と共催していた発掘調査研修がはじまりです。昭和49年からは奈文研に設置された埋蔵文化財センターが引き継いで開催してきました。現在は、奈文研の研究分野の広がり、行政が対応すべき文化財の多様化にともなって、埋蔵文化財ばかりでなく、古文書、災害痕跡、文化的景観などの研修もおこなう「文化財担当者研修」として実施しています。昭和49年から、平成27年までの累計受講者数は9146人。昨年度の受講者は171人で、99%の方々から、「有意義だった」、「役に立った」との御回答を受けています。



この研修は、文化庁とも連携しながら、全国の地方公共団体の文化財担当職員を受け入れ、最先端の研究にもとづく講義と実習を通じて受講者のスキルアップを図り、各地の文化財行政の足腰を強め、その一層の向上と充実につなげることを企図しています。また、開講課程や内容は随時変更し、その時々各地の地方公共団体が抱える課題に対応させています。講師は、奈文研の研究職員のほか、各分野での第一人者、時には文化庁文化財調査官が務めます。

研修後のアフターケアも万全で、課題や疑問に対しては、研修担当者・担当室が親身に対応いたします。また、同じ研修を受講したことをきっかけに、奈文研や同様の課題を抱える全国の担当職員との間にネットワークが生まれ、これを通じて、問題意識が共有され、課題の解消のヒントやアドバイス、ノウハウを得られることもしばしば。これも研修受講のメリットの1つです。



課程紹介

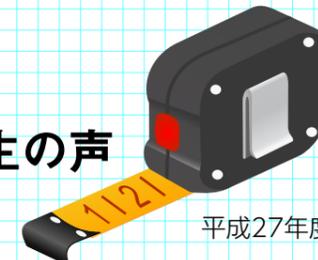
保存科学課程I 保存科学課程Iでは、金属製遺物を対象として保存処理に先立つ材質構造調査から、遺物のクリーニングや強化処置といった保存処理、そして処理後の保管環境にいたるすべての工程について実習をおこないます。さらに、研修生の方々が保存処理を外注される際に適切な仕様書を作成することができるよう、あるいは研修で使用する機材が無くとも、それぞれの職場で工夫しながら遺物の保存を図れるよう、「何故そのような処理をおこなうのか」という処理の理論を伝えることにも重点をおいた研修内容となっています。

保存科学課程IV 保存科学課程IVでは土や石材といった材料から構成される遺構を対象として、主にそれらの現地保存法について研修をおこないます。遺構で生じる劣化に対しては、遺構周辺の環境が大きく影響をおよぼしていると考えられますが、一方でそれぞれの遺構は異なる環境に立地しています。したがって、その劣化の要因や進行速度は様々で、遺構保存に関しては画一的な処理方法を提示



することは難しく、遺構周辺の環境調査を実施することで、遺構で生じるであろう劣化とその進行速度を予測し、遺構周辺の環境を制御することで劣化の進行を抑制することが肝要となります。本課程では遺構の劣化現象を概説するとともに、環境調査の実習と測定データの解釈に関する講義を通して、劣化のメカニズムについて理解を深めることを目的としています。また、現在奈文研が実施している遺跡保存の調査研究事例についても紹介する予定です。

受講生の声



平成27年度文化財写真課程のみなさん

「講義で学んだ知識をすぐに実習で体得できるカリキュラムでしたので非常に有意義でした。」

「我流であったり、先輩からの教をそのまま無批判に継承していたりする写真技術について、その技術を現物に即して教えていただける研修内容で、目の覚めるような思いがした。」

「今回、2週間学んだ成果を少しでも館に持ち帰り、日頃の業務に役立てていきたいです。」

